

遺老物語

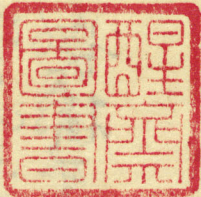
7

AF  
JAP  
1218  
9





水野家記



権現様ハ駿馬方ハ所リ解ホハ信長様方

一 義元合戦ハ我ホ生レ不リ 四重 以テ 永保ニ生レ王デ  
ツ中一ハ及第ニ通 尾易鳴海桶狭ヲめて 屋敷中上リ  
シヨハ所ト出ル山ヨ 服部小平太突カリハ 一モ勝  
ノ口ヨ 其後先利新少切テ入海首ヲ取リハ 其  
時何レ様ハ御座ルハ 口内ハ人ナシ 持テハ 一モ勝  
切レハ 其後

一 其後新屋ホキ 京トナリ 権現様ハ 傷ムカ 其後  
其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後  
ハ 信長様 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後  
ナリト 道ハ 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後 其後



其矢四倍下其れ一五鎗の如く見ゆ年以  
けりよりうけ見るもの合し二の目付柄の如く水  
水野友以日友す梶川新なる清水松の如く相見  
久米流なるにへる分神谷新七たういふ村う  
これつ 伝由るもの外余多し其れ柄の如く  
其の銘の如く不在いば者た旗えり 二の目付とき  
中いふとて

一其時分るにす水小川の石風を水野友す一五鎗  
と合お突の突の二たは脇坪と只一鎗の突伏の首  
元いふとて水もるにすの友す殿兄の友は友の  
そとあるにせらるるにすの友す殿兄の友は友の  
とてそとハ藤元とていふ 幸い信長様より

中用より出るにす藤治とていふより 子に藤すも相  
伝り親けとていふとて 中威の思ふに藤すも足成  
るにす

一信長様と越前のか倉に合ふに 子に内山谷合戦に  
相見ぬ中野の者も相見は信長様中威の如く  
及に其れ時の合戦もと 拙者親藤すも権現様相見  
は相見とていふ中威の如く 子に細く相見は相見  
は相見とていふ中威の如く 子に細く相見は相見

一之河より一撥發の時 拙者親友すも足れ少座に何の  
決不足とていふ中威の如く 子に細く相見は相見  
ところ浪人仕にあいむに水野友すも親藤すも  
中威の如く 子に細く相見は相見























此をよめたり合はるゝ門をい  
 たりといふは蝶の持との拙者  
 親の白きこゝるは  
 持とのまじりたるうゝといふ  
 其時移るゝとて一若あり  
 あり白きとていふまじりける  
 馬のり大進仕なり  
 大ひけるり由演よりみそり  
 沙汰仕後六を座

多々市中働けり本多中務も在るやうの人と云  
 うは是れ出ると押込ひちうくと尸くふへゑん  
 拙者親父、ほつちうくと尸曲偏へゑん尸あつちうと  
 と二九九押込ひ付拙者多々法外法外市井他  
 部人討死候とんとゑん八尋と尸若少又灰よゑん  
 樽尻様より御分ぶめ目々何ものぞいせ其時拙者

同前。あつちの山は、是三人に考へて、いふやうな  
は大決裂かゝるまいとも多し。是より一城へ来た  
る中、うまぬあつちの山後城と云ふ城あり  
ふくろり。城を付くべし城中に糧は多く、  
あつちも堀りて、さきひめて皆討たせしめ、城を  
吾部丹波あいに、栗田形新吉光寺に考へ、横田の  
外館ふくちも、名をあらけ、園部丹波、久保を境  
目せしむと切ぬき通す。

一  
 今久多合戦ハ卯自方小勝ナリ  
 やみぬと新々好ム  
 甲と志ふ  
 甲ハ何ナク  
 甲ハ何ナク  
 甲ハ何ナク



[illegible]

中珍集りしを乃て示津梅干とゆふ處に  
頃ハ後やしの中い何とある日當と夜まや  
市街我もと此も仕うとき市と相るは  
に陸揚迄同様仕の梅干しとい陸北前に  
是と海炮を計れ多時梅若くす々々  
歩修仕の頃ともや多原役さるる  
そ及そ死し由り我あし近所の魚比る  
とありんけとさる水通るすしちの川通す  
尸に戸めて一為そと死いとす生通るるひと  
そ江戸へありし時梅干しめと呼き其取流仕  
其時我あし梅干しめわ其久多時一要首  
よりいと事ゆきいう不審とる人い















まてなり合ふ度うさ敵軍情  
 依移甚く  
 とりものこころ様う  
 らる侍ものさつと  
 三河徳川世界やう先  
 小何れ置多けらるき仕  
 令市兵うをりしゆ何と仕ゆこれとき相  
 考はほち其あへみ誠たう  
 ねきめもーまこと  
 能うす討し惣て是の討ふにうつさるゑこり志けど  
 うはらうあうと鉄炮して折られ捨りい時象お  
 ぶあしんちうと市況のこりわろふと一働め均  
 ぶあうとおとふれ男足記  
 不及由しに付我あ  
 中ゆみハ射おられあ  
 りるをりさゆる増え  
 いさようしん急とふま  
 一か危りマとい系  
 カよりめしせひあ  
 ころい也新あり見ふ

今一、其より合の打綿三坂の坂下と打綿し我土  
 の方からなるを茂野善十郎茂多たすは是三人  
 所者生一とんふふに逢中い之定思慮の内大内  
 中といれも言及仕名とい矢念りて老おらぬ相者  
 も旧外におりの首数百あり打ちりその首新  
 府の水持とくはる欲陳をきあゝ柵と階ゆ見せ  
 らぬ、其有りちと欲えり聴てあつくりさる  
 心余衆より大違守守むに孫あるとよと人質  
 権現様誠りこれのう氏直と申縁色い後  
 以命お済みの孫あると云々なる柳家の平八梅屋三人  
 送り三坂に保心余更憶ふと指お后りの最念たる  
 次茂野善十郎とそれともうは後山渡河を記伊















みろすしのしるを自然大垣のえき  
人救ておし波集うあふあわふうの通河ま  
赤坂のし陸をふと静か魚を何とま  
中用まししといせんといと作し腹ま  
るし後まふもふ及是能くぬる  
東のふとまといふようふ人として  
松尾松より上赤坂のし呼るあふり  
達としし由流ししとくありし  
おとのしと中しあし問は後お  
るぬ誠をあしゆしいふ及是能くぬる  
上のりし合戦のし捕るあし  
とまといふとむをいふし  
とまといふとむをいふし

大垣城へ入折死侍共少なりと  
 堀者五水堅帯正十等とあり  
 所立わると押入ぬり大垣城へ  
 是れ川定の中にて大てけ  
 此より又遠く川より大を  
 置く大なる御所の馬に女相  
 ちう橋の近き人々を毒也  
 鉄炮五挺とありこれ五人  
 比との山のろ四銃とあり  
 郊とところへある一は駿河  
 うと役と立ちたり定む四銃  
 中い御城七人仕えたるも



[illegible][illegible]







ち物共よりハ、鈴木八郎と申す者親より役より  
 白人ともいふも昔々といひ聞きて一人はあり武本お  
 藤次より物造れどもそと持ていさうに付  
 るをせり其方とあうと付て是ゆき者  
 そ人のけり此本少添ても必うきめとの少  
 きりたるとあつていさかいつて原舟由緒  
 成信然りやあたる城より物来のと相良と終と  
 一よの惣谷内昆紗森忠なる親まづえおある人  
 は青と持ていとすりり方利物造のとていさ  
 おれり二奉物をりい空丹波おするもよく合不  
 へむ妙し、そのいとりみる城へ押込ぬき城  
 高何とて大旗、は御勢なりとてかしこにも

[illegible]



寅年大坡陳

一 大和口人致ふくうん時熟人致ふくうん  
あくと物者ゝ押ふくうん  
信吉社勢所は陳あるくうん  
以付布ふくうん  
而後所は陳あるくうん  
而置ふくうん  
ふくうん  
坂うくうん  
丹後丹羽郡助ふくうん  
蜂須賀阿波守ふくうん  
島新田長尾永井右近相者ふくうん

志ん只此道節見了  
 丹後も申言てを  
 都家より即ち其御  
 又ふれんは城川は  
 けさうは城にたぐ  
 山へ吏へ其城川を  
 右の同く申す所を  
 幸く申すはふとく  
 一の太近より信吉  
 仕由内之とてし  
 左の自給川と誠は  
 し中く成るありき  
 方申意ぶ承り誠は  
 物者ハ付仕寄場  
 とら永久ハ昭々  
 昭々とは是に在



[illegible][illegible]







唐年、西國、勅使とて、回道仕職、  
 西國、漢京、  
 傳升、  
 素口、  
 一、  
 月、  
 傳、  
 合、  
 一、  
 福、  
 我、

一 是日、夕、大いそ、時分、日向、所用、以、所、城、に、在、  
 上、以、一、と、中、上、役、と、り、付、と、別、二、条、に、中、城、へ、兵、より、  
 出、目、見、佐、以、一、以、ひ、さ、と、く、近、う、兵、あ、は、と、中、上、  
 兵、所、例、へ、同、く、佐、以、一、其、時、分、佐、以、一、友、を、あ、は、一、と、ん、  
 佐、井、を、新、二、と、ん、と、あ、一、と、中、上、佐、以、一、あ、は、一、と、中、上、  
 所、以、一、大、和、口、より、押、以、一、と、中、上、人、より、あ、



といふにそとをてりいふに市意と氣列  
 大和元旗本が作付の間石つきて集うに少  
 さいやが物若くといふ去年堀丹後石を  
 田舎より作付の石とていふ丹後とて石を  
 集ふと申さるゝが、何れ大和元去年友をいふ作  
 付の時仕立ふとの時友をいふより少くといふ  
 さいやが又といふ石仕我うまゝとていふ六か  
 らといふ石よりとて石の間物若くは友堂より小身  
 といふに、いふに物若くは又といふ石仕  
 といふに、いふに物若くは又といふ石仕  
 りたり時は、いふに物若くは又といふ石仕  
 といふに、いふに物若くは又といふ石仕

日向と一口の大和をうへ思ひて一り此に止し我のまゝにと  
 一とわたりゆき名得る者一人と二人とぬみ  
 ちろ一と一と一とゆき来是時かゝる少  
 後とて通ひんふらふ上は十六七の若衆も少く  
 次方お例の上で少人数のうちに一り日向と  
 藤堂と一口一何とてなるとと堅分が  
 日向は上様ゆ代とてそのまゝ自ら他我  
 まゝ一にていて成敗仕と作の中後島と少  
 諸一上の書付ゆきふらふ度とて八人救とて  
 一なる多作ゆき必じうれ一利なりめ是情を  
 お身うせさ仕とていて、其うしてつた分と少後  
 ちろせん若衆も刻明可有致と一とあへ



少早うの男一あり過所立山と云ふ所は拙者ト上共  
 須奈ハ其乃大和ノ少く廻り山ハ二の所ちハ  
 尸の間明りて奈トト別所立山田ノ所ハ多  
 所陸丸岳ト云ふと有是山乃人ハ山塚ノ口  
 山ノトトト奈ト云フ山ノ口ハ山ノ口ハ  
 良ノ押也城ト云ふ此ノ山ノ口ハ山ノ口ハ  
 世ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ  
 山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ  
 官中坊左近友林市郎奈良とあり此  
 乃ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ  
 山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ  
 山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ山ノ口ハ

系良ハ新紙使用ニシテ  
 不レハリト云フ所  
 然ルモ立オ来セバたゞノ命ナク  
 シキ事ハ之ヲ  
 意ニテ遠レハ人アサ  
 ヲテ山ヨリ是地モ一列也  
 之ヤク系良ハ新紙使用ニ立  
 テ系良とヤセ  
 有カト云フケツケ  
 プハ系良ハ新紙使  
 倉ガ十カラ奥四カラ  
 為人ヨリ木津川  
 役者ト紙ノハ系良ハ  
 焼石ノハ敵郡  
 山ト燒別コソリ山ニ陣取  
 居ルハ由一列也  
 中坊後  
 小あへてけけ  
 中坊後  
 林也我亦に違フ  
 方るけけハそれ  
 我亦







下向。乃明きけ寺のすゝ片山へ其誠候る足討陸  
 りて一付し人ねとはうづく細し梅名あり  
 其れ時何れり片山の我あふ片山へらなきてよりとら  
 ちひふも物見ふもあやと不意といひていかに  
 いへりいふまに直ちちりりち候して中納言  
 此中内れよいかうかうさう置頭  
 中山島自由村浪左馬へゆらふ片山尺多は  
 ち、金に勇徳友よりりり誠六片山に梅若ハチ人死  
 一勇徳友ハ信保ふつちり先より者以分て在  
 片山へ押出たりと何とてり作小梅若等  
 て仕とりまといふ山尺切石りするりりり

うゑていけ山ふらんとくくく大坂くくくく  
平野を通り坂井寺に順礼せられたる  
けしお廣山と名付くくく平野よりてし  
おと真実寺四八幡を通り片山へ押上りかきより  
遊覧しハ片山ハ是よりあき山といふ山ハかき  
くくくくくくハ片山より少隔てて此間ハ田川  
よりわたり橋より所を過り是ハ一帯ハ陸より  
ハ片山と名ふくくく不流の地海丹後ハ片山  
よりくくくハ真流の地より切くくくハ片  
山ハ陸よりておとくくくハ我より我より  
後ハ片山よりくくくハ橋より海丹後  
海丹後よりくくく口向よりくくく石仕よりてハ人より人



石得の道もふはふしと申後  
 くわしきまきと申も多し我  
 ち居るも其後、おれどんあ  
 孫は丹後の人其後、又次、  
 左馬、丹後、孫、片山、  
 其後、丹後、くわしきまき  
 申、中山、解田、其方、人、  
 申、くわしきまき、申、く  
 申、くわしきまき、申、く  
 申、くわしきまき、申、く  
 申、くわしきまき、申、く

難ハ申人ハ掛リ男愛中山島ケ由阪道及  
 此トモ市目山掛ハ只そ知エハなるしゆと過動  
 子由とのハ何とらなれ市目守少中城ハ召に与一  
 何うつけ候も市目守はすこゆう多急事ハ通所  
 してきくハ即ち由らしか作候ふ不意而因  
 向日向友思ふく作分初く何をぬわさるを  
 ハ名也かりと即解由とい日向友はすていまた  
 候ふ所ん坊のりうハ我アハ何も水友急事  
 付いろく作ハ却テ申ふと我あめり通り回あふ六  
 お候ハ後より苦なる先あらづかぬ故臨  
 うて成ともれり七ツなりふお仰具夜ハくぬ保と  
 うけ明れハ六りふられ夜中時ふうたいま川と



とて 右井寺と相討つてきりいほとくきやし  
りいとは不審なりけりい後多事候と物者  
よりけりい大和にいさしきりい丹後より人  
みはきりい物者黒川をたるとり鉄炮候けりい  
より丹後よりけりい紙りい討ふたいきりい見  
りい物きりいきやりい不審なる候に夜に物者  
回ふ具足とてぬきりいてきりい後多事候と片山に  
鉄炮候きりい物きりいきりいけりい紙りい  
後大和よりけりい丹後よりけりい鉄炮候きりい  
よりけりい置りいりいいあねりい鉄炮候きりい  
と物きりいりい返りてい候きりいりい物者  
はかきりいりいりいりい歌きりい夜井寺と押

かきりいりい宮に候大和にけりい毎にけりいりいりい  
とてけりい後多事候とけりい片山に物者ありけりい  
川明より片山よりけりい鉄炮候きりいりいりい  
りいりい物者りいりいりい少き遠よりりいりいりい時  
相倉奥田物者よりけりい先片山のりいりいりい細き川  
をりいりいりいりい陳りい置りいりい片山よりけりい鉄炮  
りいりいりいりいりい相倉奥田よりけりい片山にけりい  
けりい之候きりいりいりい時國平の分とりい室人相倉奥  
田に通りりいりいりい浪人ふ六人日ありけりい鉄炮  
相倉奥田の國平のりいりいりいりいりいりいりいりい  
何れりい浪人おとけりいりいりいりいりいりいりいりい  
相倉奥田のりいりいりいりいりいりいりいりいりいりい



Pの時刻移りPの居る所より山へ入り  
 片山に上りてありし處へ入る人々矢張り  
 それ場所を討死仕と奥田よりかゆやうして  
 生かぬといふ言ひとP其山へ奥田松倉一帯に入り  
 Pの奥田の人二人と一あそび討死仕の時片山  
 山中を這つたてられんと見P何れも入らぬ  
 と最一いふなり：然らずとP別それ山  
 より物考よりまた入る人々逃る—其下にて三度  
 と合戦あり其御羽取四六道明寺なり、  
 人殺と云ふPの山とていふ最—下は合戦け  
 時横江と島舟入Pの時2月1日あゝ逃るPの  
 中尾明寺と並ぶ—人々がこれいふ時は多きで

折檻の片山は山とて入道殿の時先物者  
 二名中山勘由とあるは平賀氏他とあるは村  
 瀬とあるは所及第の源四とて田中と名稱はちいさき  
 所とあるはこれとて一紙の時本なる系とあるはこれ  
 されとあるはこれとてきとてみけかりの時右人  
 此との見とあるはこれとて元かりとあるは系  
 おとれとあるはこれとてこれとてこれとてこれとて  
 あととみおとれとあるはこれとてこれとてこれとて  
 とてこれとあるはこれとてこれとてこれとてこれとて  
 けのこいて友井幸山とてこれとてこれとてこれとて  
 西は物者との河村新のこれとてこれとてこれとて  
 政宗とあるはこれとてこれとてこれとてこれとて



石のいゝなりき一とん首無名もの杉野相馬と  
 とし取らるるをいふに又ある人其横目なる者  
 といふにこれ働かざる者と横目なる者といふ  
 数多きとも是ハ一なるべしといふ言ふは  
 何れも、とていふに都合義ありきねと云ふ  
 目より下也といふても軸なる人と近々仕  
 目録仕多う仕さるる中後六日白多物と仕  
 乃明寺表より合義編にて有ねとて月計  
 由り御へども其後ふたつと作共うんとす  
 い市機嫌にていふ我も彼れと相田金と制竹  
 度ゆあ人中からあきれた市座更々  
 手取りで相馬仕るや款いきと徳井さけあ

平野道長を人数と云ふる合て居るに政宗は彼  
 と其賊の合戦は其勝るものなり欲はのさ然とけ  
 りて平野よりふりてそち新井に下りて其  
 所付ぬれりと政宗は下りてちつて下りて其  
 と云ふはなり合はて後松崎玉葉と戦て其  
 上、四ノ巻とて多人数多きものなりは付け  
 りなり下りぬれりと下りぬるなりは付け  
 と度目正宗とては誠なる物なり正宗は下りぬるなり  
 と云ふはなり合はて下りぬるなりは付け  
 とて下りぬるなり合はて下りぬるなりは付け  
 果て下りぬるなり合はて下りぬるなりは付け  
 ては果て下りぬるなり合はて下りぬるなりは付け







行下しとて又も懐友の作ハ島ヶ由なる所合  
 うり付てし以て合せしう中へ成り居る由なり  
 六款に編まけハ何そ若者信ふやうでなれど  
 さん中後立名ぬそれ通て物志ふあらし  
 我よりハとり付くゆゑいあらけれとみえといふ  
 姜懐友は旅ふらう付て中へ成り居るや  
 と苦交を務め仕合ふに事候ひける定む  
 樽現極委中尋ふ所なりて或とな忠惑仕る  
 りつらうりちも付んと有るが款ハ七ツ下り月  
 より一ハありとある間時分ふ布多あきか度酒井  
 右の尉友の人うぐと多山平さ度うりハ日向の  
 常々知考そいハ此時にとこい乃明り是をこそ

[illegible]











抄者より廣田圖書尾関氏に宛つて  
合Pの事、則実たる事と云ふれPの  
見Pの事、又それより助と云ふ書  
と仕の者を宛たし、又それより  
Pのそれの事と云ふれ、又それ  
と云ふれ、又それよりPの事と云  
その人、今にあり、折に甲の事  
その、此の事、又それよりPの  
と云ふ、又それよりPの事と云  
Pの事、又それよりPの事と云  
の事、又それよりPの事と云

抄者より久々なりとPの事と云  
一伯振なりと云ふ事、又それ  
の事、又それよりPの事と云

一、お友に後より政る、又それ  
一、お友に後より政る、又それ  
お友に後より政る、又それ  
お友に後より政る、又それ  
お友に後より政る、又それ

一、お友に後より政る、又それ

一、浪人仕、又それよりPの事  
へ、お友に後より政る、又それ











つれづれにても是なりいふもなかりにそれなり  
働かすこれ思ふ親子孫ありとておそれ  
さへしう沙汰仕に思ふありむしこ又ゆくり  
そのそれりの持とれ黒母をくく母を人  
めりあうくまやくりきりくはけは是とく沙  
汰仕に松野少太郎とく老是ハ内蔵く助在集  
く老なるに越中よりおきて御才者たるにつらん  
それりけきくくくみ具足御城白き移りとなる  
まといはるるやあふかきくそれ御城と云いて  
まふあふかき名きはるくあやふたふく  
と斗りける依くらん内本村とくこの赤化ぬ  
四寸二金銀きりりと置きくこのに侍先

へ逃すは名をはりてはく  
 人にもあはれ居る事合ふ  
 口てあはれしたはれは  
 とらへて一揆をとり  
 せう合つたはれは  
 ともこふふはれは

一 小西 橋付より八里後宇土より城小所より山あり  
小西より飯所より三所より城小所より山あり  
のち親より山あり

一志波天草は一揆者なり。時志波新城より別志波  
とれり。いふ馬を志波親領。別志波及ふ他又  
惣より志波よりなり。別志波よりなり。志波



のふくみり作舟あそびてハ志波城と候一  
つとらり御舟を小西流之島御停地知久寺又  
と仁志波城へをりし志波城二をり  
川入天草れをり御舟に城と候一とらり  
りしをりいちやうかえ二れ丸のトとて川入を  
りり御舟に明つたきお悪う遊歩のり付りし  
とらりやくのりあひのり沖へ押かーり  
余れよりりり久寺又を演習のり山より  
りり山より付りり久寺又親親何  
りりあそび一和をり付りり就まろり  
合戦のり月中旬小西御舟りか後以後も同  
小西流之島波へをりし小西口は付りり演習

まろりつとて是のり遊る仕をりり志波城  
御舟に御舟七とて九月のり御舟のり志  
波城よりりりりり演習は後よりりり  
あがり御舟をりりりりり志波城より人  
とらりりりりりりりりりりりりりり  
くくくくくく御舟をりりりりりりりり  
人取をりりりりりりりりりりりりり  
付りりりりりりりりりりりりりりり  
御舟をりりりりりりりりりりりりり  
とらりりりりりりりりりりりりりり  
とあけりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり



[illegible]

才山形動るゝ者も物名司ふ小麻うらふま  
 プりてども折屏はさきより鉄炮二挺おごりて  
 プりてと一挺ハ物者川ふくうとりしと一挺に  
 うんちつともうきうきへぬきプル付いたて  
 一二所に物を置くもはや役、之をプル由なれう  
 ろいれきゆとプルせ物者なりくあはプル時鳴  
 ぐりめきプルにほ去とプル小姓ふくよのひけふそ  
 ぐりれかふたう瑞持とこれんけプルより是  
 まを新細とプルり物者プルハ物々んむろや  
 呂々宗込プルに糸物係ふ物をしらとプルに受あそけ  
 場そころゆあふ第うお果プルにその物者ハ二つ  
 名仕れと決たりか夏以後も度ゆふ天子め



本所一揆大將氏戸を捕とすとの志故に後屯  
 志故一押也一天皇はとのちと合戦あはさる事  
 記後す先より山岳及び河原に立とせし  
 一園田が望むる武彦 福原 陸奥大將大木  
 織部 泷野之位は者々と押かりし頃人殺  
 旗本ハ 兵衛年人殺む候多 飯田市急忍人殺  
 ハ志故の跡に少のりて斗 天皇 民衆を更け  
 立し山へ押さるる先より者一ハとありて  
 一 記後旗本くさる事 かつりし時兵衛  
 飯田市より 記後側を日かき傷を付候追討  
 一 是二三に追討仕へ 記後より身がけ候  
 物此よりあり 傷より 兵衛の跡にありて

島田島と  
肥後守小堀秀一  
外より傷  
是ハ肥後守  
傷合戦見  
付書

一物者ハ小西松津と云ふ所在志波城と押へ居  
ル以後も人殺小西目あふ志波城と苞し  
志波城を圍て小西うけとて以後天草お戸は  
城く押詰るなりとてかりお戸は城仕立  
つけちるなりとの落しといひ以後も山を  
うらふ所足場狭り小西ハ東に水ありとて  
ありとてお戸は志波城なりといひとて  
と戦ふなり一付一當のなりとてお戸は  
久原を襲ふ我軍もこれとてけしる  
初めとて

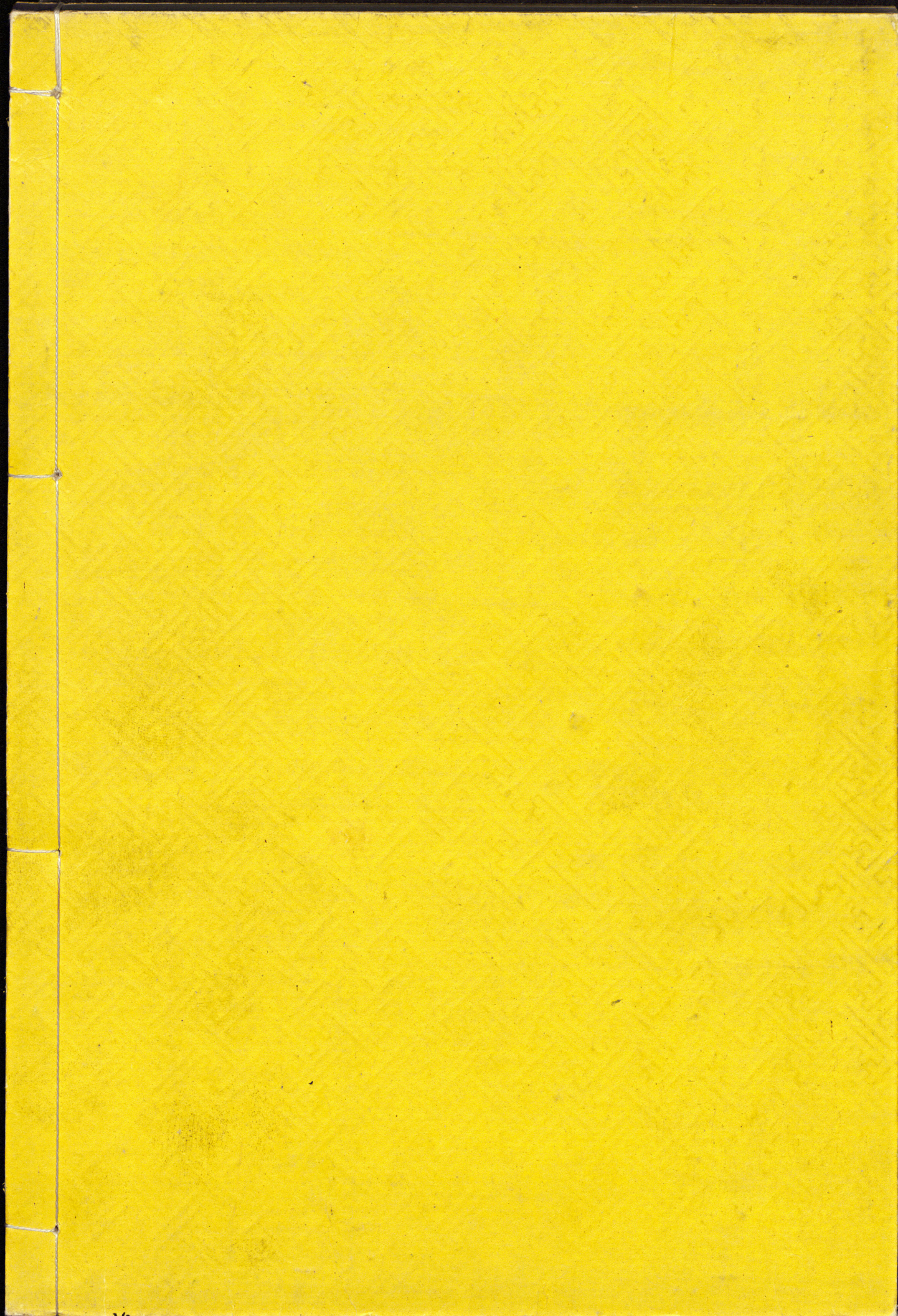
















H+K 2

GretagMacbeth™ ColorChecker Color Rendition Chart

15.01.2002